

三國史記高句麗地名各論

卷三五・#25/#53 越の八口？

orig: 2004/06/27
rev : 2004/08/03

| | | | |
|----|-----|--------|-------------------|
| 25 | 獐口郡 | * 獐項口郡 | [25獐項口縣(一云古斯也忽次)] |
| 53 | 臨江縣 | * 獐項縣 | [53獐項縣(一云古斯也忽次)] |

獐とは、角の小さい鹿、のことで日本語では「のろ」という獣のことだそう。それを高句麗語では「クシ」に近く発音すると考えられる。

●上の高句麗地名、獐項口郡、または、獐項縣の主部は「古斯也忽次」つまり「クシヤクチ」「コシヤクチ」に近い音に読む。これが「越八口」と奇妙に対応している。

最後の「忽次」「クチ」は「口」の意味として考えられる(板橋#22)。「37 交河郡 * 泉井口縣 [37泉井口縣(一云於乙買串)]」参照するに「口」は「串」に対応している。「串」は村用語の一つである。つまり「口」も**村用語**と考えて良い場合がありそうである。

最初の「古斯」については

90 玉馬縣 * 古斯馬縣 があり、玉＝古斯(板橋#21)と抽出されている。

中央の「也」「ヤ」が文字列としては「項」に対応しているようなのだが、その意味を「うなじ」と取るとどうも意味がよく通じない。何らかの地形的な表現であろうか。

そこで上記以外での「也」の使用例を調べることにする。

| | | | |
|-----|-----|--------|-----------------------------------|
| 99 | 狼川郡 | * 狴川郡 | 狼＝狴 [106狴川郡(一云也尸買)] |
| 103 | 益城郡 | * 母城郡 | 益＝母●(板橋#56では也次＝母) [114母城郡(一云也次忽)] |
| 127 | 野城郡 | * 也尸忽郡 | |
| 132 | 蔚珍郡 | * 于珍也縣 | |

- 99の「也尸」(近い音はヤシ、ヤルあたり)は「狼」か、何か想像上の動物の名前のようだ。
- 127では「也尸」と「野」が対応していそう。
- 103によると「也次」(ヤヂ、ヤチあたり)は「母」の意味になる。「母」は「ヤク」あたりの音でも表しているようだ。
- 132の「也」は隠れて? 消去されて? いるようだ。

と言うわけではかばかしい成果は得られなかった。

最初のデータに立ち戻って53を見てみると

| | | | |
|----|-----|-------|------------------|
| 53 | 臨江縣 | * 獐項縣 | [53獐項縣(一云古斯也忽次)] |
|----|-----|-------|------------------|

であり、ここから新羅の「江」と高句麗の「項」が対応している。もう一歩進めると:

●「和語 江 ye = 高句麗 項 ya= 新羅 江」となるのではないか。

新羅地名での「江」が高句麗語の「項 ya」に対応しているとすると、和語の「江 ye」もこれに列なるものではないか、と提起できると思う。

一方では、「古斯」(コシ、玉)と「忽次」(クチ、口)に挟まれた「也」(ヤ)が「8」を表す数詞ではないか、という非常に淡い期待を頭の片隅に留めている。

云うまでもなく日本の越の國は玉(瓊:に、ぬ)の産地でありヌナカハ(今の姫川)、ヌナカハ姫に関連づけられそうである。また、「越の八口」は所造天下大神(オホナムチ)が平定した(出雲國風土記意宇郡母理郷・拝志郷)という伝承のある地である。

なお、岩波風土記では「越の八口」について「クチはクチナハ(へビ)・クチバミ(蝮)と同語。記紀に八岐の大蛇とあるのと同じ。或いはそれを地名化した伝承か。越後國岩船郡関川村に八ツ口がある。」と頭注している。

[高句麗語の研究の勉強TOPへ](#)
[HPへ戻る](#)